

中国における大学でのキャリア支援に対する学生の認識 —大学類型による学生のニーズの分化に焦点を当てて—

成情情

広島大学大学院

概要：中国の学生の就職問題を解決するための重要な手段として、大学でのキャリア支援はますます重要視されている。しかし、先行研究によると、学生がキャリア支援を十分に活用していないことや大学の多様性による支援の違いといった問題は十分に検討されていない。これを踏まえ、本研究では中国山東省の大学の学生を調査対象とし、大学から提供された支援と学生の利用状況を実証的に分析する。その上で、大学でのキャリア支援に対する学生の認識がいかに関大学類型によって異なるのかを検討する。分析の結果、既存のキャリア支援は学生に十分に認知されておらず、学生の利用率は総じて低いことが明らかになった。とくにインターンシップの機会や就職指導など実践的側面での支援の利用度が低いことがわかった。また、大学の類型により、キャリア支援に対する学生の認識が異なっていた。全国重点大学では実践的なもの、また、就職に関する知識の獲得についての支援が、地域重点大学では学習に関する支援が、さらに、地域非重点大学では職場で直接役立つスキルの習得についての支援がより多くの学生に認識されていた。

キーワード：キャリア支援、大学類型、地方大学

Student Perceptions of University Career Support in China: —Differentiation of student needs by university type—

Qianqian Cheng

Graduate School of Hiroshima University

Abstract: *In China, university career support has received increasing attention as an important measure to solve the employment problem of college student. However, related research has shown that issues such as student utilization and university diversity have not been adequately studied. In light of this, this study empirically analyzes the support provided by universities and student utilization by surveying university students in Shandong Province, China. We will then examine the differences in students' perceptions of career support at different types of universities. The analysis shows that existing career support is not fully recognized by students, and utilization by students is generally low. In particular, the use of practical support such as internship platforms and career guidance are low. In addition, students' perceptions of career support varied by type of university. Students at national key universities are more aware of practical and intellectual support, while regional key university students are more aware of support for learning. Regional non-key universities are more aware of support for acquiring skills that are directly useful in the workplace.*

Keywords: *Career support, types of universities, local universities*

1. 問題の所在

本研究の目的は、中国の学生が大学でのキャリア支援をどのように認識しているのか、また大学類型によって、その認識がいかに異なるのかを検討することである。

中国の大学でのキャリア教育は、近年、急速に発展してきた。しかし、その内実は学生のニーズとは大きくかけ離れているとたびたび指摘されている。

中国のキャリア教育を大きく発展させた要因は中国政府による政策的なものであった。つまり、中国政府はキャリア教育に関する一連の指示や政策を打ち出してきた。例えば、大学でキャリア教育に関する授業を必修化し、専門と関連した応用的な授業の比重を増した（「大学生職業発展与就業指導課程教学要求」2007）。また職業・産業との密接な連携を保つことなどを大学に義務付けた（「教育部關於深化本科教育教學改革全面提高人才培養質量的意見」2019）。一方、大学側は、こうした政策に応じるため、カリキュラムにキャリア教育を組み込み、産学連携など職業との連続性を取り入れることで学生のキャリアを支援しようとしている。

しかし、このような支援はどれだけ学生に届き、どの程度有効に役割を果たしているのだろうか。こうしたキャリア支援の実質的な役割についての実証的研究の蓄積は少ない（文ら 2012）。一方、現実には政府から強力に支持され、大学が重視しているにもかかわらず、依然として多くの学生は「自分の位置づけや適職に迷って」（趙, 2010, p.15）いるとされる。卒業時点で就職も進学も決まっておらず、いわゆる「待定族」²になっている（麦可思研究院 2019）。このように、支援を利用しない層も含めて、大学でのキャリア支援・キャリア教育がどれほど学生に認識され、どのように評価されるのかを検討することは重要な課題だろう。

だが、先行研究はあまり学生のキャリア支援に対する認識を対象としておらず、実証的研究は非常に少ない。大学でのキャリア支援に関する研究をレビューした文ら

（2012）が指摘したように、中国のキャリア教育はまだ初期段階にある。そのため、先行研究では、欧米などの理論を援用して中国の状況を分析するにとどまっているものがほとんどである。そこで使われる理論としては、例えば、個人のキャリアはさまざまな段階に分けられるとするスーパーのキャリア発達理論（阮・王 2010 など）、キャリアは動機、コアコンピタンス、価値観が交わるアンカーを中心に選択されるとするエドガー・シャインの「キャリア・アンカー」理論（李 2007 など）などが先行研究で頻繁に参照されている。

このように、中国における大学でのキャリア支援に関する実証的な研究はいまだ非常に限定的なものに過ぎない。その中で数少ない実証的研究として、趙（2010）、張（2015）、九門（2020）と朴・渡辺（2020）が挙げられる。

趙（2010）は北京の学生を対象として、学生が求める支援や大学側の支援に対する学

¹ 中国では大学は大きく2種類に分けられる。つまり、全国重点大学と地域大学（非重点大学）である。ただし、地域大学の中には地方政府から重点大学に指定され、地域でのステータスが高い大学も存在する。そこで、地域大学をさらに「地域重点大学」と「地域非重点大学」に分けた。このような分類は一般的であり、「艾瑞深同窓会」という民間の大学評価・コンサルティング研究機関でも見られる。（<http://www.chinaxy.com/2022.9.10> 最終アクセス日）

² 麦可思研究院（中国の大学卒業生情報調査の機関）が発行した「中国本科生就業報告」では大学生卒業後の進路状況を調査する際、統計を取った時点でまだ就職も進学も決まっていない学生を「待定族」と定義した。

生の認知状況を検討した。その結果、学生は就職に直接関わる支援を求めているが、大学側はこれらについての支援が不十分であり、教育の内容もたんなる情報提供にとどまり、学生の不満を引き起こしたことを指摘した。張（2015）は学生が求める支援と実際に利用した支援について調査した。その結果、学生が求める支援は多様化しているが、大学のキャリア教育を理解していないため、実際の参加率が低いことが明らかにされた。九門（2020）は、中国の大学でのキャリア支援には需給のギャップがあること、つまり、大学が提供するキャリア支援と学生の需給との間に大きなズレがあることを指摘している。そのため、大学は学生の需給にあわせたキャリア支援策を講じる必要がある、また大学入学後の早い段階からキャリア支援を行うことが提唱された。また朴ら（2020）は、中国で上位レベルの外国語大学で、学生が求めるキャリア支援と大学の支援に対する満足度について調査した。その結果、キャリア教育に関連する指導を受ける学生の満足度が学年によって変化することが指摘された。

以上のように先行研究では、学生は大学からさらなるキャリア支援を期待している一方、現段階の支援に不満を感じていることが指摘された。これは、学生を対象とした実証研究の重要性を裏付けるものであり、また、学生が望むキャリア支援策を検討する意義を示すものだろう。しかし、これらの先行研究には大きく次の2点の課題が残されている。

一つは、先行研究は学生の認知状況、または利用状況について概観しただけにとどまっており、両者の関連についての考察が十分になされていないことである。先行研究の大多数は学生のキャリア支援の認知状況に関するものであり、学生のキャリア支援の利用実態、また、両者の関係については看過されてきた。しかし、効果的なキャリア支援策を検討するためには、学生の認知状況と比較しながら利用状況を検討する必要がある。

もう一つは、先行研究では大学類型の違いが無視されてきたことである。先行研究は、多様な教育機関を一括して論じ、分析結果をすべての大学で共通したキャリア支援の問題として提出してきた。つまり、現在の大学の多様性を反映した研究が行われていないことが大きな課題である（例えば趙 2010、朴・渡辺 2020）。先にも指摘したように、この十数年で、中国の大学は急速に大衆化した。その結果、大学は社会、および経済のニーズに適応した多様な性格を形成しつつあり、学生も多様化している。ゆえに、大学類型が異なれば、キャリア支援に対する学生の意識も異なる可能性が高い。だが、先行研究はこうした大学の、あるいは、学生の多様性を十分に考慮してこなかった。

そこで、本研究では、中国の学生を対象とした実証的な調査にもとづき、大学類型の違いにより、学生のキャリア支援に対する認識と評価がいかにより異なるのかを検討する。

また、本研究の意義は次のようになる。実証的な調査結果に基づいて、学生のキャリア支援に対する認知だけでなく、キャリア支援の利用状況や評価についても詳細に分析を行い、キャリア支援策の改善に資する分析結果を提供する。また、大学類型ごとに学生の状況を検討することで、中国の先行研究で大学と学生の多様性が重視されていないことを補い、多様な学生層に対する適切なキャリア支援を促すことにも役立つだろう。

2. 調査の概要

2.1 調査地域

日本の大学について山田（1998）が指摘しているように、地方にある大学は「各地域

の特殊性を背景にしていたため、それぞれ異なった性格を持っていた」(山田, 1998, p. 147)。中国では省や地域の経済と文化の発展状況によりさらに大きな差異が生じている。また、同じ地域であっても、異なる類型の大学が存在しており、大学類型により性格が大きく異なっている。本研究では、こうした大学類型による違いに焦点を当てるため、中国全体の大学像を検討するのではなく、山東省という地域に限定して大学類型別にキャリア支援の現状を検討する。

山東省を選択した理由として次のことが挙げられる。まず、山東省には4年制の本科大学が70校あり、その数は中国の省でもっとも多い。山東省の大学は多様であり、教育部に直属する全国重点大学、省に属する地域の重点大学、その他、数多くの一般の大学が存在している。このように多様な大学が共存し、それぞれの役割を果たす山東省を対象とすることにより、大学類型によるキャリア支援の違いを明確にすることができると思われる。

2.2 調査対象の概要と調査方法

本研究で分析するアンケート調査は、2021年3月2日から3月20日にかけて、中国の山東省にあるA大学、B大学、C大学、D大学、E大学という五つの大学で行った。アンケート調査の目的などを説明して各大学の教員に依頼し、授業前に学生に配布、回収した。その際、授業時間に侵襲しないよう配慮してもらった。

筆者が行った調査の概要は以下のとおりである。文系専攻の、3年生と4年生を分析対象とし、調査対象者数は435名(男性136名、女性299名)である。そのうち全国重点大学(A大学、B大学)106名(男性58名、女性48名)、地域重点大学(C大学、D大学)188名(男性29名、女性159名)、地域非重点大学(E大学)141名(男性49名、女性92名)である。

A大学とB大学は中国の教育部に属する双一流³大学、つまり、全国重点大学である。政府は、全国重点大学の位置づけと人材育成の目標として「世界一流の大学と一流の人材を育成する」(光明日報 2018)としている。また、A大学とB大学では、優れた知識をもつ専門人材、つまり、エリートを養成することが期待される。大学のホームページで公表されたデータによると、2021年の卒業生の就職率はA大学が86.1%、B大学が85.9%であった。またその年のA大学卒業生の55.0%が国有企業や教育機関など公的セクターで働いている。

C大学とD大学は歴史が長く山東省では有名な地域重点大学である。また大学の位置づけとしてC大学とD大学は、山東省の教育と経済発展に貢献することが強調されている。2021年C大学卒業生の就職率は88.6%で、主に教育業界に集中しており、約40.1%を占めている。また、D大学卒業生の就職率は88.3%である。

E大学は山東省に属す地域非重点大学である。大学の建学理念としては「応用型の普通教育の本科(四年制大学)を建設する」ことが掲げられた。2021年のE大学の就職率は96.1%である。

³ 双一流とは、世界一流大学・一流学科の略称であり、高等教育強国を築き上げることが目標である。全国重点大学の中で、一流とされる大学と学科を選定し、財政的、制度的な支援が重点的に行われる。

(http://www.moe.gov.cn/s78/A22/A22_ztzt/ztl_tjsylpt/sylpt_jsgx/201712/t20171206_320667.html
2022.9.15 最終アクセス日)

2.3 調査対象校のキャリア支援

本節では、政策と調査対象校でのキャリア支援の状況を概観しておきたい。先にも述べたように、中国政府は学生のキャリア形成を支援するため、大学でのキャリア支援に関するさまざまな政策を導入した。2015年「高校卒業生就業起業工作扎实推进教育部简报」では、「職場適応発展」の指導が強調された。2016年「教育部办公厅关于进一步做好高校卒業生就業創業工作的通知」では、「学生の職業発展と就職指導課程を人材育成の全過程に融合させ、業界の動向と発展の需要とを結び付けて、講座、フォーラムを行う」ことが求められた。さらに同年、「教育部关于深化本科教育教学改革全面提高人才培养質量的意見」が出された。この「意見」では、「学生のための学習指導制度を確立し、個性的な育成方法と学習計画を制定する」ことが求められた。さらに、2019年、「教育部关于深化本科教育教学改革全面提高人才培养質量的意見」で、大学は学生のキャリアを支援するため「実習のメカニズムを改善し」、「産業との密接な連携を保つ」義務があるとされた。

これらの政策からわかるように、大学でのキャリア支援策は大学類型の違いとは無関係に、一律に同じ制度が適用されている。学習支援は無論として、キャリアに関する授業や講座、カウンセリング等の施策を講じることで、学生のキャリアを支援することが大学に義務付けられた。また、専攻に関連した実習や職場見学の機会を提供することが大学の役割とされた。ただし、実際には、各大学はそれぞれ多様に対応している。そのため、大学ごとに支援の内容や方法などに大きな差異があり、それをまとめることは困難である。そこで、本研究では政策上、各大学で実施されるべきとされるキャリア支援の項目を学生がいかにかに認知、利用また評価しているのかを調査した。以下では、大学類型ごとに、学生がいかにかにキャリア支援を認識しているのかを検討しておきたい。

3. 大学による取り組み

本章では大学でのキャリア支援の状況に関する学生調査の結果を概観する。つまり、大学が学生のキャリアを支援するため、どのような取り組みをしているのか、またどのような役割を果たすのかを学生の視点から検討する。

以下で示すように、学生は実践的な支援についてあまり認知も利用もしておらず、評価も低かった。

3.1 キャリア支援の認知状況と利用状況

分析結果を検討する前に、アンケート項目の回答方法について説明しておこう。キャリア支援への認知と利用に関しては、項目を列挙して複数回答を求めている。認知/利用しているとして○がされたものを「認知している」/「利用している」、それ以外を「認知していない」/「利用していない」と表記している。

また、キャリア支援に関する項目のうち「産学連携」とは大学と連携する企業や会社などから、学生が職業に必要なスキルや知識を身につけるための資金や技術などの支援を受けることを言う。企業からのインターンシップなどもこれに含まれる。

以下では、大学から提供されるキャリア支援に対する学生の認知と利用の状況を検討した。表1はその結果を示している。この表からわかるように、総体的に大学から提供されるキャリア支援に対する学生の認知度が低く、その利用状況はさらに低いものであった。

まずキャリア支援に関する学生の認知度を見てみよう。表1からわかるように、「キ

「キャリア教育に関する授業」(64.4%)、「進路に関するカウンセリング」(64.2%)、「進学や勉強に関する指導」(63.4%)、「就職に関する講座」(59.4%)、「充実した学習設備」(47.0%)という座学や勉強など知識面の支援の認知度は比較的高い。一方で、「企業や会社での実習する機会」(38.8%)、「専攻に関する産学連携」(37.64%)、「職場見学などの機会」(21.9%)という実践的な支援を認知している学生は2、3割程度と少ない。このように、学生の認知が講座や授業のようないわゆる座学にとどまっていることがわかる。

表1 大学キャリア支援への認知と利用の状況 (%)

| | 認知の状況 | | | 利用の状況 | | |
|---------------|--------|---------|------------|--------|---------|------------|
| | 認知している | 認知していない | 合計 | 利用している | 利用していない | 合計 |
| 進路に関するカウンセリング | 64.2 | 35.8 | 100.0(430) | 29.0 | 69.2 | 100.0(427) |
| キャリア教育に関する授業 | 64.4 | 35.6 | 100.0(432) | 40.6 | 59.4 | 100.0(434) |
| 就職に関する講座 | 59.4 | 40.6 | 100.0(434) | 37.6 | 62.4 | 100.0(434) |
| 専攻に関する産学連携項目 | 37.4 | 62.6 | 100.0(435) | 11.6 | 88.4 | 100.0(430) |
| 企業や会社での実習する機会 | 38.8 | 61.2 | 100.0(433) | 21.5 | 78.5 | 100.0(435) |
| 職場見学などの機会 | 21.9 | 78.1 | 100.0(435) | 11.6 | 88.4 | 100.0(432) |
| 充実した学習施設・設備 | 47.0 | 53.0 | 100.0(433) | 26.7 | 73.3 | 100.0(431) |
| 進学や勉強に関する指導 | 63.4 | 36.6 | 100.0(434) | 38.5 | 61.5 | 100.0(435) |

続いて表1で、キャリア支援の利用の状況を見てみよう。この表からわかるように、知識や勉強に関する支援はもっとも多くの学生に利用されている。すなわち「キャリア教育に関する授業」、「進学に関する指導」と「就職に関する講座」について利用した学生の割合はもっとも高く、それぞれ40.6%、38.5%、37.6%を占めている。続いて、2割程度の学生は「進路に関するカウンセリング」(29.0%)、「充実した学習設備」

(26.7%)、「企業や会社での実習機会」(21.5%)に関する支援を利用していた。「専攻に関する産学連携」(11.6%)、「職場見学などの機会」(11.6%)という実践に関する支援を利用した学生は同様に少ない。

このように、学生は大学がキャリア支援を提供してもあまり利用しておらず、とくに職業や実践に関する支援をあまり利用していなかった。

3.2 キャリア支援に対する評価

次に、調査対象とした大学で提供しているキャリア支援の項目について、それらを実際に利用した学生による評価を検討したい。

表2は大学のキャリア支援に実際に参加した学生に対し、その満足度を聞いた結果である。この表からわかるように、大学でのキャリア支援に対して不満を感じる学生は多くないが、積極的に満足しているとする学生も多いとは言えない。

まず、全体的な評価の状況を見てみよう。「全体として大学のキャリア支援」に「満足している」とした学生は50.5%である。つまり、大学でのキャリア支援に対する学生の満足度は約半数にとどまっており、十分な数の学生が満足してはいないことがわかる。また、「満足していない」とする学生は1割に過ぎないが、3割以上の学生が「どちらでもない」と回答している。つまり、積極的に満足と回答する学生は限られているのが現実である。

表2 大学のキャリア支援の役割と満足度(%)

| | 役立つ | どちらでもない | 役立たない | 合計 |
|---------------------|--------|---------|-------|------------|
| 自分の適性或適職が明らかになった | 63.0 | 27.9 | 9.1 | 100.0(435) |
| 進路実現に向けて何をすべきかがわかった | 59.4 | 31.7 | 9.0 | 100.0(435) |
| キャリアを見通せるようになった | 58.4 | 30.5 | 11.1 | 100.0(435) |
| 就職情報を数多く得た | 59.6 | 28.8 | 11.6 | 100.0(435) |
| 企業や機関で実習する機会を得た | 47.4 | 28.0 | 24.6 | 100.0(435) |
| 進学する大学院を決めるのに役立った | 50.0 | 30.2 | 19.8 | 100.0(435) |
| 専攻の希望を決めるのに役立った | 59.2 | 24.7 | 16.2 | 100.0(435) |
| | 満足している | どちらでもない | 満足しない | 合計 |
| 全体として大学のキャリア支援に満足 | 50.5 | 37.8 | 11.7 | 100.0(435) |

続いて、具体的な評価を見てみよう。「自分の適性或適職が明らかになった」「就職情報を数多く得た」「進路の実現に向けて何をすべきかがわかった」といった項目はもともと多くの学生に評価され、それぞれ63.0%、59.6%、59.4%を占めている。続いて、多くの学生に評価されたのは、「キャリアを見通せるようになった」(58.4%)、「専攻の希望を決めるのに役立った」(59.2%)である。また、「進学する大学院を決めるのに役立った」、「企業や機関で実習する機会を得た」とする学生はそれぞれ50.0%、47.4%を占めている。

このように、大部分の学生(5割以上)は知識の獲得に関する支援を評価しているが、「企業や機関で実習する機会を得た」についての評価は、そこまで高くない。また、企業での実習の機会を「役立たない」とした者は24.6%とほぼ4分の1であった。これは企業など学外での実習の機会があっても十分に学生に周知されておらず、うまく利用できないと学生が考えていることを示しているのだろう。

4. 大学類型によるキャリア支援に対する認識の分化

以上、キャリア支援に対する学生の認識を概観した。前述のように、こうした学生の意識や行動は大学類型によって異なる可能性がある。だが、これまでの研究では、この大学や学生の多様性が十分に考慮されてこなかった。そこで、本章では学生のキャリア支援に対する認識を大学類型別に検討する⁴。

4.1 大学類型による認知と利用の違い

本節では大学類型の違いにより、どのようにキャリア支援に関する認知状況、利用状況、および、評価が異なるのかを検討する。つまり、各類型の大学における学生から見たキャリア支援の特徴を検討する。

表3はキャリア支援の諸項目について、認知している学生の割合、利用している学生の割合を示したものである。まず、大学類型による学生の認知状況の違いをみてみよう。「進路に関するカウンセリング」、「キャリア教育に関する授業」についての支援を認知している学生は全国重点大学、地域重点大学、地域非重点大学でそれぞれ61.9%、

⁴ 今回調査したサンプルは少し女性に偏っていたが、キャリア支援への認識については、統計的な性差があまり見られなかった。

56.5%、75.9%であった。つまり、地域非重点大学の方がカウンセリングの存在を認知している者が多い。

また、「専攻に関する産学連携」の項目で全国重点大学、地域重点大学、地域非重点大学で認知している者の割合はそれぞれ48.1%、30.6%、38.3%と、全国重点大学の学生の認知度が高くなっていた。「職場見学などの機会」という実践的な支援について全国重点大学は21.2%、地域重点大学は16.5%、地域非重点大学は29.8%と地域非重点大学で学生の認知度が高くなっていた。

表3 大学類型別にみたキャリア支援への認知と利用の状況(%)

| | 認知の状況 | | | | 有意確率 | 利用の状況 | | | | 有意確率 |
|---------------|-------|------|-------|-----------|------|-------|------|-------|-----------|------|
| | 全国重点 | 地域重点 | 地域非重点 | 合計 | | 全国重点 | 地域重点 | 地域非重点 | 合計 | |
| 進路に関するカウンセリング | 61.9 | 56.5 | 75.9 | 64.2(276) | ** | 46.2 | 19.2 | 30.5 | 29.5(126) | *** |
| キャリア教育に関する授業 | 74.3 | 60.2 | 62.4 | 68.4(278) | * | 48.6 | 39.4 | 36.2 | 40.6(176) | n.s |
| 就職に関する講座 | 56.2 | 58.5 | 63.1 | 59.4(258) | n.s | 44.8 | 34.6 | 36.2 | 37.6(163) | n.s |
| 専攻に関する産学連携項目 | 48.1 | 30.6 | 38.3 | 37.4(161) | * | 26.2 | 5.4 | 9.2 | 11.6(50) | *** |
| 企業や会社での実習する機会 | 37.5 | 42.0 | 35.5 | 38.8(168) | n.s | 27.9 | 24.5 | 12.8 | 21.5(93) | ** |
| 職場見学などの機会 | 21.2 | 16.5 | 29.8 | 21.9(95) | * | 10.6 | 5.9 | 19.9 | 11.6(50) | *** |
| 充実した学習施設・設備 | 43.8 | 51.6 | 43.3 | 47.0(203) | n.s | 27.2 | 32.6 | 18.4 | 26.7(115) | * |
| 進学や勉強に関する指導 | 43.8 | 75.0 | 62.4 | 63.4(275) | *** | 26.7 | 51.6 | 29.8 | 38.5(167) | *** |

続いて、「進学や勉強に関する指導」という学習に関する支援については、他の類型の大学（全国重点大学43.8%、地域非重点大学62.4%）と比べると地域重点大学ではより多くの学生（75.0%）が認知していた。

このように、キャリア支援の認知度について、大学類型により異なる特徴が見られた。すなわち、全国重点大学ではインターンシップという就職に関する支援、地域重点大学では進学や勉強に関する支援、また、地域非重点大学では職場でのスキルの習得に関する支援を認知している者が多かった。

次に、大学類型による学生の利用状況の差を見てみよう。「進路に関するカウンセリング」を利用した学生は全国重点大学、地域重点大学と地域非重点大学においてそれぞれ46.2%、19.2%、30.5%を占めている。また「キャリア教育に関する授業」と「就職に関する講座」では統計的に有意な差異がみられなかったが、全国重点大学のほうが利用したものの割合が高くなっていた。このように、座学による支援は全国重点大学で他の類型の大学よりも多く利用されていた。

「専攻に関する産学連携」、「企業や会社での実習する機会」というインターンシップに関する実践的な支援は全国重点大学がそれぞれ26.2%、27.9%、地域重点大学は5.4%、24.5%、地域非重点大学は9.2%、12.8%である。つまり全国重点大学の学生は、インターンシップに関する支援の利用度が高くなっていた。

続いて、職場でのスキルの習得については、地域非重点大学で「職場見学などの機会」の利用度が19.9%であり必ずしも高くはない。しかし、全国重点大学の10.6%、地域重点大学の5.9%という値と比較すれば、地域非重点大学の利用状況は全国重点大学を上回っている。

また、「充実した学習施設・設備」「進学や勉強に関する指導」という学習支援について地域重点大学の利用の割合はそれぞれ32.6%、51.6%であった。同じ項目では全国重点大学で27.2%、26.7%、地域非重点大学で18.4%、29.8%であり、地域重点大学で利用する学生の割合が多いことがわかる。

中国における大学でのキャリア支援に対する学生の認識
—大学類型による学生のニーズの分化に焦点を当てて—

以上のように大学類型の違いにより、キャリア支援に対する学生の認知状況が異なっていた。つまり、全国重点大学の学生にとっては知識の学習やインターンシップに関するものが重視され、地域重点大学の学生にとっては学習に関するものに重点が置かれ、また、地域非重点大学の学生は、総じてキャリア支援の認知、利用ともに消極的であるが、一部で職場でのスキルの習得が重視されている。

では、なぜこのような分化が生じているのだろうか。その要因については考察で詳細に検討したい。

4.2 大学類型による評価の違い

表4 大学類型別にみたキャリア支援への評価(%)

| | 全国重点 | 地域重点 | 地域非重点 | 合計 | 有意確率 |
|---------------------|------|------|-------|-----------|------|
| 自分の適性や適職が明らかになった | 88.6 | 46.7 | 61.0 | 63.0(235) | *** |
| 進路実現に向けて何をすべきかがわかった | 81.0 | 45.5 | 58.5 | 59.4(225) | *** |
| キャリアを見通せるようになった | 81.9 | 42.6 | 58.3 | 58.4(222) | *** |
| 就職情報を数多く得た | 81.0 | 41.3 | 64.7 | 59.6(226) | *** |
| 企業や機関で実習する機会を得た | 71.4 | 32.9 | 44.9 | 47.4(179) | *** |
| 進学する大学院を決めるのに役立った | 58.1 | 48.1 | 45.4 | 50.0(189) | n.s |
| 専攻の希望を決めるのに役立った | 78.1 | 52.6 | 50.8 | 59.2(223) | *** |
| 全体として大学のキャリア支援に満足 | 82.1 | 39.1 | 41.2 | 50.5(215) | *** |

続いて、本節では大学でのキャリア支援に対する学生の評価を検討する。表4は大学類型別にみたキャリア支援への評価を示している。この表からわかるように、全国重点大学でキャリア支援の各項目に肯定的な態度を持つ学生が多くなっていた。

まず、「全体として大学のキャリア支援に満足」とする学生は、全国重点大学、地域重点大学と地域非重点大学それぞれ、82.1%、39.1%、41.2%であり、明らかに全国重点大学で多くの学生が満足していた。

続いて各項目の評価を見てみよう。「自分の適性や適職が明らかになった」「進路実現に向けて何をすべきかが分かった」「キャリアを見通せるようになった」という三つの項目で「役立つ」とした学生は、全国重点大学ではそれぞれ88.6%、81.0%、81.9%であった。地域重点大学ではそれぞれ46.7%、45.5%、42.6%、地域非重点大学では61.0%、58.5%、58.3%と全国重点大学ではこれらの支援の効果を肯定する学生が他類型より遥かに多い。

また、「就職情報を数多く得た」「企業や機関で実習する機会を得た」という就職に関する支援項目への評価について、全国重点大学では81.0%、71.4%、地域重点大学は41.3%、32.9%、地域非重点大学は64.7%、44.9%であった。つまり、全国重点大学ではより多くの学生が就職支援の効果を評価している。続いて「専攻の希望を決めるのに役立った」について、全国重点大学、地域重点大学と地域非重点大学はそれぞれ78.1%、52.6%、50.8%であり、全国重点大学の学生が高く評価していることがわかる。

このように全国重点大学でキャリア支援を高く評価する学生がもっとも多くなっていた。一方、地域重点大学ではキャリア支援を評価する学生がもっとも少なかった。

5. まとめと考察

以上、中国山東省の事例に基づき、キャリア支援の認知と利用の状況を明らかにし、

その大学類型による違いを検討してきた。分析結果は次のようにまとめられるだろう。

第一に、大学でのキャリア支援の利用度は低く、その効果に対しても学生はあまり満足していない。また、たとえキャリア支援が認知されていたとしても、学生の利用状況は十分ではないことを指摘した。

第二に、大学類型によりキャリア支援に対する学生の認識が異なっていた。すなわち、全国重点大学の学生は知識の学習やインターンシップに関する支援を重視し、地域重点大学の学生は学習に関するものに重点を置き、また、地域非重点大学の学生は、総じてキャリア支援の認知、利用ともに消極的であるが、一部で職業スキルの習得を重視している。

第三に、全国重点大学でキャリア支援を高く評価する学生がもっとも多く、地域重点大学でキャリア支援を評価する学生がもっとも少なくなっていた。地域重点大学の学生は就職だけでなく、進学についても支援を求めている。そのため、大学でのキャリア支援の評価が低いと考えられる。

以上の結果は先行研究では十分に検討されておらず、本研究により明らかにされた知見である。これらの結果をもとに、次の2点について結果から導かれる仮説も含め、考察しておこう。

第一に、大学類型によってキャリア支援に対する学生の意識が分化している要因についてである。現在の大学は多様化しており、その類型による社会的位置づけの違いが重要な要因の一つであると考えられる。中国のいわゆる深刻な学歴社会、つまり、大学が難易度によって序列化されていることがキャリア支援に対する意識が分化する要因になっている。

全国重点大学の学生は就職や卒業後のキャリア形成に対する支援を求めている。全国重点大学は学歴社会のトップクラスであり、エリート養成機関と位置づけられる。本分析の対象であるA大学、B大学も同様である。これらの学生はいわば将来の高い社会的地位が約束されており、就職先も収入や社会的地位の高い公的セクターなどである。就職市場で有利な立場にいるため、就職やキャリア形成に関する支援を求めることになる。その一方、全国重点大学の学生は進学でさらに高い学歴を得る必要がない。そのため進学に対する支援には地域重点大学ほど興味を示さないのだろう。

地域重点大学の学生は進学に関する指導を求めている。地域重点大学では「応用型大学」、すなわち卒業後の就職を重視する大学として認識されてきた。しかし、近年大学の大量化に伴い、地域の大学は全国重点大学の発展モデルに追随し、「研究型」大学となるために努力してきたとされる（張・肖 2006）。このような地域重点大学の学生は、全国重点大学よりも劣位におかれているという意識が強いのだろう。全国重点大学への入試に失敗して、地域重点大学に進学した者も少なくないだろう。そのため、地域重点大学の学生は自身の学歴を上位の大学の大学院に進学することで書き換える必要がある。いわゆる学歴ロンダリングである。これが地域重点大学の学生が進学に対する支援を求める大きな要因であろう。

地域非重点大学の学生は就職に対するキャリア支援を求めている。地域非重点大学は、地域で就職し、地域の発展に貢献できる「応用型人材」を育成することを目標としている。カリキュラムでも職場での技能の修得が強調される。その学生も学歴を通じて大都市や世界に出て行くのではなく、地域社会での活動を望んでいるのだろう。そのため、進学して上位の学歴を取得するのではなく、就職することが重視される。

それでは、大学はどのような支援を行えば良いのだろうか。考察の第二点として、大

学による支援について検討しておきたい。これまで、学生のニーズに応じる支援策が強調されてきたにもかかわらず、多くの先行研究が大学類型を問わず画一的な指導を提案してきた。実際に各大学は政策や先行研究にしたがい、そこで提示された項目を実施してきた。しかし、本研究で明らかにしたように、大学類型によってキャリア支援に対する学生のニーズは大きく異なっている。

例えば、全国重点大学と地域非重点大学ではともに就職に対する支援が求められていた。しかし、学生が必要とする内容は大きく異なっていると考えられる。エリート養成機関で求められる内容と、地域への就職が重視される場合では、支援する内容や方法を変える必要がある。また、地域重点大学の学生は進学や学習に関する支援を強く望んでいた。学生のニーズにあわせれば、地域重点大学では、全国重点大学の大学院に進学できるよう進学に対する支援を行うことが考えられる。しかし、大学の存在意義を考えれば、進学予備校化することは決して望ましくないだろう。曖昧な社会的位置づけに甘んじず、地域重点大学の役割を再検討することで学生の進路を導く必要がある。キャリア支援はこうした大学の性格を再定義するためにも利用できる。

さて、以上のようにキャリア支援に対するニーズが大学類型によって異なる要因、および、大学の対応の可能性について仮説も踏まえながら検討し、今後の改革の方向を示唆した。もちろん、ここで提示した内容は分析結果から推測されるものを多く含むため、すべてを十分に検証することができていない。各大学でのキャリア支援とその利用状況を量的、質的にさらに分析し、中国の大学で求められるキャリア支援について検証したい。

参考文献

- 朴慧淑・渡辺憲二、「大学生のキャリア意識に関する実態調査—中国の外国語大学を事例として」『中央学院大学社会システム研究所紀要』第21号, pp. 21-31, 2020.
- 範俏慧,「中国小都市出身の大卒者の就職における家族の影響」『教育社会学研究』第101集, pp. 91-110, 2017.
- 光明日報, 「新時代中国大学の使命」(2021.10.21 最終アクセス日)
https://epaper.gmw.cn/gmrb/html/2018-06/05/nw.D110000gmrb_20180605_2-13.htm, 2018
- 教育部, 「大学生職業發展与就業指導課程教学要求」(2021.10.21 最終アクセス日)
http://www.moe.gov.cn/s78/A08/moe_745/tnull_11260.html, 2007.
- 教育部, 「關於成立 2010-2015 年教育部高等学校起業教育指導委員會的通知」(2021.10.21 最終アクセス日) <http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/s5672/201004/t20100426120175.html>, 2010.
- 教育部, 「高校卒業生就業創業工作扎实推進教育部簡報」(2021.11.1 最終アクセス日)
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/s3165/201508/t20150825_202943.htmlhttp://www.moe.gov.cn/srcsite/A15/s3265/201012/t20101213_113505.html, 2015.
- 教育部, 教育部办公厅關於做好核發「高校卒業生自主創業証」有关工作的通知(2021.11.1 最終アクセス日) http://www.moe.gov.cn/srcsite/A15/s3265/201012/t20101213_113505.html, 2016.
- 教育部, 關於深化本科教育教學改革全面提高人才培養質量的意見(2021.10.2 最終アクセス日)
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/s7056/201910/t20191011_402759.htm, 2019
- 九門大士, 「中国人大学生のキャリア意識と中国大学に求められるキャリア教育—大連外国語大学との日中共同アンケート調査の分析」『アジア研究所紀要』第46号, pp. 53-77, 2020.
- 李大勇, 「淺議大学生職業生涯發展規劃教育」『教育与職業』第15期, pp.110-112, 2007.
- 麦可思研究院 編, 「2019 年中国本科生就業報告(就業藍皮書)」, 社会科学文献出版社, 2019.

- 阮海涛・王震,「生涯発展理論視角下的職業規劃教育」『人民論壇』第8期, pp.280-281, 2010.
- 山田浩之,「彦根高等商業学校生の社会的属性—地方高等商業学校の社会的機能—」『松山大学論集』第10巻第1号, pp.147-165, 1998.
- 文萍・馬宏賢・施堅,「大学生職業生涯教育研究綜述」『中国成人教育』第3期, pp.20-23, 2017.
- 張任,「中国における大学のキャリア教育の展開に関する考察—素質教育の補助と延長という視点から」『東アジア研究』第13号, pp.45-73, 2015.
- 趙峰,『高校就業指導工作体系研究』中国市場出版社, 2010.
- 張応強・肖起清,「中国地方大学: 発展、評価与問題」『現代大学教育』, 第6期, pp.1-4, 2006.
- 朱茹華・甄月橋,「男女大学生就業現狀的差異分析」『高等農業教育』第9号, pp.55-58, 2012.